

昭和二年八月一日印刷

(隨筆春城六種)

昭和二年八月三日發行 定價貳圓八拾錢

著者 市島謙吉  
東京市牛込區東五軒町三十五番地

發行者 種村宗八  
東京市牛込區辨天町百五十七番地

印刷者 竹內喜太郎  
東京市牛込區四町七番地

東京市牛込區早稻田

發行所 早稻田大學出版部

(編者 東京一三二二三  
大坂六八九〇〇)

日清印刷株式會社印刷

市島春城著

# 春城隨筆

四六判五五〇頁  
總布函入美裝  
定價貳圓八拾錢  
郵稅拾貳錢

面白い隨筆を讀みたい人は先づ第一に本書を讀め！

讀書界の人氣を沸騰させ、幾萬の讀書子に深い感銘を與へた『隨筆頼山陽』の著者、春城先生が現代隨筆界の最大權威たることはいふ迄もない。事實、著者ほど博覽にして多方面の趣味に通じた者は尠かろう、本書はこの多方面の趣味を最もよく表現したもので、機智縱横、諷諭百出、筆鋒愈冴えて讀者をして酔へるが如くならしめる。眞に天下一品の隨筆集である。

## 目次大要

上篇 雅俗相半録——婦人の決闘——元祿義擧の隠れた後援者、切支丹珍話、掏摸の著述、金貸し東叡山、縁切寺、以下百十數項。  
下篇 趣味談叢——寺は趣味の淵藪、茶人の趣味教育、反古趣味書簡の區趣味、豆本蒐集談、酒趣百則、以下十數項。

東京 早稲田大學出版部發行  
大阪 東大 振替  
一六八〇  
二〇〇九

市島春城著

# 隨筆賴山陽

▼本書は何故、無際限に賣れる？

(一)材料は著者が四拾年間苦心蒐集したもの、而も従來の著述中に漏れた斬新な材料を網羅したこと(二)山陽に對する褒貶的態度を超越して其人間味を赤裸々に表したこと(三)隨筆體に面白く描き、どの頁を読んでも趣味津津たること、などが主なる理由であらう。今回更に新發見の材料に依る記事八十餘頁及珍奇な寫真數葉を添加した。殊に竹田が寫生した山陽竹田對座の圖は山陽の肖像畫として真に天下一品である。

三六判七二〇頁  
口繪多數入美裝  
定價 參圓  
郵稅拾貳錢

東京 振替 行發部版出學大田稻早 京東 込牛  
〇〇九八六阪大

市島春城著

藝苑一夕話

(上下二卷) ▼江戸文人詩客の逸話集

本書は『蟹の泡』の姉妹篇とも言ふべきもので、それが西洋の逸話を集めたのに對して、これは日本藝苑の逸話集である。即ち江戸文化が頂點に達して幾多の文人詩客を輩出した文化文政時代に於ける「ツムヂ曲り」の人の逸話を中心としたもので、無邪氣で而も極めて味のある珍談は、一度手にすれば一氣に讀了せしめて了ふ底の魅力がある。

三六判全九百頁  
總布函入美裝  
價各貳圓參拾錢  
郵稅拾貳錢

東京牛込 早稲田大學出版部 大田 三二一 一〇〇九八六

# 市島春城著

## 蟹の泡

三六判五百頁  
總布函入美裝  
定價金貳圓  
郵税金八錢

本書に輯めた小話百五十篇、其の多くが東西先賢の逸話に屬する所から、書名を「蟹の泡」と題した。畢竟藝苑の天才と云はるゝ人は、其の言行概ね一風變つてゐて常徑を履まず、多くが世間の所謂「ツムヂ曲り」なるもので、言はゞ蟹の横行にも似た行き方である。而して又蟹には元來腸が無いと云はれてゐるが、之等先賢の行徑常軌を逸して居ながら、亦甚だ無邪氣な點がそれによく似てゐる。

…此書が讀者に破顔一笑の興を添へることもあれば、全くこの「ツムヂ曲り」諸先輩の賜に外ならないのである。(著者序文の一節)

早稲田大學出版部

東京 牛車水 一丁目 三三番地 啓辰堂

# 市島春城著

# 大隈侯一言一行

▼侯の眞筆（寫眞版）二枚 其他口繪八枚

世界的偉人大隈侯遊いて以來、國民が侯を哀惜追慕するの情、益々加はる。此の偉人の日常生活の精細は、何人も知らんと欲して未だ知り得ざる所。茲に市島氏あり、侯に隨身すること四十餘年、侯の一言一行を悉く日記に誌し置き、其一顰一笑をも洩さず。今此日記を土臺として侯の言行を口述し、文壇の雄將にして平生隈侯を敬仰せる梅溪氏を筆録す。侯の家庭生活、趣味、嗜好、人物觀、社會觀、各種の逸話を網羅せる空前の隨筆的傳記にして、侯の面目宛がら生けるが如し。寔に侯を千古に傳ふべき一大書也。

三六判五四〇頁  
總布函入美裝  
定價貳圓參拾錢  
郵稅拾貳錢

東牛 京込 早稲田大學出版部 東京大 一六八〇 二〇〇